



—第25号—

## 地域・だいがく連携通信

### —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室  
〒657-8501  
神戸市灘区六甲台町1-1  
TEL : 078-803-5391  
FAX : 078-803-5389  
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

## 兵庫県文化財防災研修会の開催

この夏、人文学研究科地域連携センターでは、COC + 事業の一環として、兵庫県教育委員会との共催で、兵庫県文化財防災研修会を開催しました。この研修会は、自然災害から地域の文化財等を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や学芸員らが防災対策を話し合い、大規模災害発生時の相互支援体制の構築に向けた情報共有の場とするために、2018年度より開催しています。

また、2019年4月に施行された改正文化財保護法を受けて、全国の市町村では、文化遺産の保存・活用についての目標や、具体的な中長期計画を記載した、文化財保存活用地域計画の作成が計画されています。こうした状況を踏まえ、今年度の研修会では、兵庫県内の市町で作成する地域計画に、文化遺産の防災に関する項目を盛り込んでもらうことも意図しています。

研修会は、7月25日（神戸・阪神地域、於神戸大学）、8月7日（東・北播磨地域、於加古川勤労市民センター）、8月23日（西・中播磨地域、於姫路市立城郭研究センター）、9月2日（丹波・但馬地域、於朝来市埋蔵文化センター）、9月9日（淡路地域、於洲本市役所）の5回に分けて開催され、兵庫県下のほぼ全ての市町村からの参加を得ました。内容は、開催日によって若干の変更がありますが、内田俊秀（京都造形芸術大学名誉教授）・奥村弘（人文学研究科教授）による講義と、松下正和（地域連携推進室）による水損資料ワークショップ、加えて県や市町の防災担当者による、各地の防災体制についての講義が行われました。会の最後に行われたディスカッションでは、具体的な資料のレスキュー方法に関する質問が多く出たほか、現実に災害が起こった際に、文化財担当者がスムーズに動けるための体制づくりについてなど、具体的かつ有意義な意見を得ることができました。

今回得られた、各市町村からの意見を踏まえつつ、次年度以降もさらに内容を深化させた研修会を実施していく予定です。



神戸大での研修会  
(2019年7月25日)



姫路会場での水損資料ワークショップ  
(2019年8月23日)

## 第5回 COC+ 協議会を開催

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」もいよいよ最終年度を迎えました。2019年9月12日、神戸大学学術・産業イノベーション創造本部棟において、平成30年度事業報告・決算及び令和元年度事業計画・予算等について協議を行うため、第5回ひょうご神戸プラットフォーム協議会を開催しました。協議会に先立ち、行政・企業等の事業協働機関の方々と県内就職状況の厳しい現状を踏まえ総括し、最終報告にむけての取組みについての意見を交換しました。また、協議会では、事業終了後のプラットフォームについて話し合い、緩やかに維持する方向で検討することとなりました。

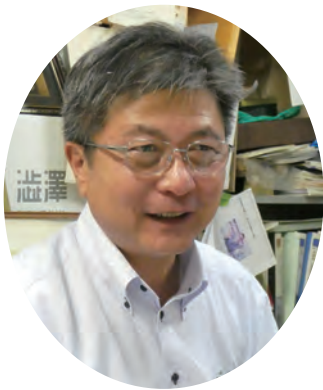


協議会の様子

公募地域連携事業から

夢前花街道事業と加点的健診事業（「よいとこ」健診）

～姫路市夢前町での実践～



地域連携推進室の公募事業に今年度採択された「経済学と医学の連携による文理融合・地域活性化」事業について、社会システムイノベーションセンター（経済学研究科）の藤岡秀英先生にお話を伺いました。

－今回公募された事業は、どのようなものでしょうか。

現在行っているのは、「夢前花街道事業と加点的健診事業の連携による地域活性化実践研究」です。この事業は、医学研究科地域医療活性化センターの岡山雅信教授、八幡晋助教と経済学研究科の衣笠智子教授、山岡淳准教授と私、さらに「ニッセイ財団」からの助成も頂いて、甲南女子大学医療栄養学部、兵庫教育大学、立命館大学からも研究者が参加しています。

2018年12月から、姫路市夢前町山之内地区で、実践研究を行ってきました。山之内は人口574人、2019年6月現在、高齢化率55.5%の地区です。山之内では、(株)香寺ハーブガーデンが休耕田でハーブを栽培し、廃校になった旧山之内小学校を工場にして、ハーブ製品をつくり、販売するという地域活性化の事業に取り組んでいます。さらに「農家レストラン且緩々」も展開し、地元で新たな雇用を生みだしています。

－事業について、もう少し詳しく教えてください。

2018年2月に夢前花街道事業実行委員会が組織され、「健康増進のまちづくり」をやるとういうことになりました。夢前花街道事業は、香寺ハーブガーデンの福岡譲一社長が旗振り役です。私は、その前から、これに関わっていました。

そこで、医学研究科の岡山先生を招いて、現地を見ながら何ができるかという相談をしました。そして、岡山先生が、住民を対象に、採血等をしない、医師免許がなくても誰でもできる「問診票」中心の健診を考案されました。

「加点的健診事業」は、既存の様々な健診票を参考にした問診票で、家族、職業、運動量、人付き合

いなどから健康や活動、心の状態を尋ね、良い部分を見つけ出します。学生が面談し、その結果をもとに、健康にプラスの効果をもたらす部分をとにかくほめてあげるという方法です。一般的な健診では、悪いところを指摘します。それとは反対に、「加点的健診事業（よいとこ健診）」では、結果表に「よい習慣」として二重丸がつけば嬉しいし、ほめられます。受診者の健康づくりへの意欲を引き上げ、「地域のイベントに参加しよう、運動しよう」と思うようになる。つまり、健康づくりへのモチベーションアップがねらいです。2019年9月からは、Web上で、問診票の記入を入力すれば、A4一枚で健診結果をすぐにお示しできるようになりました。

－毎日の生活の中から、良い面が「見える化」され、肯定的に示されるのがいいですね。

より多くの地域の行政や介護事業者にも関心をもっていただきたいですね。これにより、健康診断の受診者を増やし、予防医療、介護の重度化予防にもつながれば、医療費削減にも貢献することが期待されます。

2019年9月には「健康フェスタ」を開催し、「よいとこ健診」受診者を「特定健診」につなげる活動を行いました。そして11月には、姫路市医師会が国民健康保険課と連携し、国保の「特定健診」が山之内で初めて実施されます。

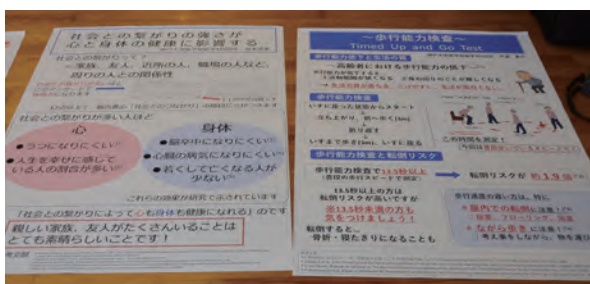
私の専門は「経済社会政策」です。医療保険と介護保険の研究を土台に「地域創生政策」の理論化と実践に取り組んでいます。疾病予防とともに介護の重度化を防ぐために、地域住民と一緒に「健康増進のまちづくり」をテーマに、新たな地域文化を育てることが目標です。

－その他の活動も教えてください。

よいとこ健診が、地域に受け入れられたのは、2018年夏に行われた「山之内地区盆踊り再開事業」の成功があったからです。ここには神戸大学「学生流むらづくりプロジェクト『木の家』」の学生達が参加してくれています。今年は、台風の影響で、会場が体育館内に急遽変更になりました。それでも200人以上の住民が集まってくださいました。

また、昨年秋から香寺ハーブガーデンの支援と地元の大工さん達の指導を受けながら、学生達による「古民家改修・活用事業」も行っています。そこが、山之内での活動拠点となっています。こういった地域での信頼の獲得が、健診事業にもつながっています。また、学生にとっては、多様な体験知を増やす場にもなっているわけです。

－ありがとうございました。





## 東播磨フィールドステーションの取り組み

東播磨フィールドステーションは、2018年6月に設立された地域活動と研究活動の拠点です（上段写真）。3大学（神戸大学大学院農学研究科，京都大学大学院農学研究科，兵庫県立大学地域創造機構）と兵庫県東播磨県民局との連携協定のもと，活動を進めています。

東播磨フィールドステーションの目的は，地域資源を保全・活用し，地域のレジリエンスを高めていくことにあります。活動の柱として，大きく3つ設定しています。

1つ目は「環境・経済エコシステムの構築」。自然資源の維持・活用と，地域ビジネスや事業の創出・成長を促すため，多様な主体の協業・協働関係（=エコシステム）を構築しています。例えば，里山の木々の活用や草刈りをビジネスとして回していく仕組みづくりをおこなっています。

2つ目は「地域人材の育成とネットワークの形成」。地域資源の管理活用をすすめる人々のための学習，実践，研究，出会いの機会を作るため，ワークショップ等をおこなっています（中段写真）。

3つ目は「地域ナレッジの管理・継承」。地域で育まれてきたナレッジ（知識，知恵など）を継承をすすめるとともに，新結合を促します。例えば，ため池の管理後継者を育成していくための手法を開発しています（下段写真）。



## 「神戸のつどい」に大学展示ブースを出展しました！

2019年8月8日（木）、本学と連携協定を結ぶ神戸市が主催する「神戸のつどい」が、パレスホテル東京において開催されました。

「神戸のつどい」は、東京で活躍中の神戸にゆかりのある政界、経済界、官界等の方々に対して、神戸の魅力やPRし、神戸への関心を高めていただく機会とすることを目的として、毎年1回開催しています。当日は神戸市長、神戸市議会議長をはじめとして、ラグビーワールドカップ2019アンバサダーである大畑大介さんも参加し、700名以上が親交を深めました。

神戸大学からも学長、理事のほか、大学展示ブースとして、教員、職員、学生による大学PRチームが参加しました。学生による商品開発「ステーキハーブパウダープロジェクト」、統合報告会「シンダイシンポ」の案内、統合報告書の紹介等をチラシや動画を使ってPRしました。また、新たに発売される神大うりぼーグッツの展示も行い、参加者からの興味を惹いていました。



## 令和元年度 地域連携公募事業

### 地域連携事業（教職員対象）

部 局	活 動 内 容
国際文化学研究所	地域の歴史遺産としての「戦災資料」と戦後・市民の平和運動 —その軌跡とネットワークをめぐって
社会システムイノベーションセンター (経済学研究科)	経済学と医学の連携による文理融合・地域活性化事業
医学研究科	兵庫県内の医療過疎地域の高校生を対象とした医療系人材育成促進事業
医学研究科	兵庫県吸入指導認定薬剤師制度（薬剤師マイスター制度）の制定に 向けた活動
医学部附属病院	神戸市感染対策地域連携ネットワークの構築
工学研究科	有野台団地再生・活用プロジェクト
システム情報学研究科	食を起点とした地域未来課題発見・解決方策の検討

### 学生アクションプラン（学生対象）

団 体	活 動 内 容
World Theater Project Youth 神戸大学支部	経済的・環境的に映画鑑賞の機会に恵まれない子供達への映画体験の提供
工学研究科道場「未来社会研究会」 ステーキハーブパウダーチーム	姫路市夢前町山ノ内×神戸大学ステーキハーブパウダープロジェクト
母子健康応援プロジェクト	母子にやさしい街づくり
神戸学生森林整備隊こだま	学生による生物多様性を考慮した森林整備の実践と発信 —神戸の森の生物多様性を知り、守り、伝える—

### 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成

団 体	活 動 内 容
人間発達環境学研究所（教職員）	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト
神戸大学天文研究会（学生）	なだ星まつり
灘地域活動センター（N.A.C）（学生）	灘区内の災害復興住宅の集会所におけるふれあい喫茶の運営や戸別訪問活動
まちプロジェクト実行委員会（学生）	まちプロジェクト'19

### 活動報告（平成31年3月～令和元年9月）

3月	11日	(大学)	神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業公募開始
	13日	(大学)	地域連携事業・学生地域アクションプラン公募開始
	25日	(大学)	平成30年度神戸大学地域連携活動報告書発行
	30日	(都市安)	地域づくりの基礎知識シリーズ4 「災害から一人ひとりを守る」刊行
4月	1日	(大学)	品田 裕 理事・副学長着任
	12日	(大学)	第1回神戸市大学連携実務担当者会議（第2回6/21、第3回8/29）
	20日	(都市安)	第244回オープンゼミナール （第245回5/18、第246回7/20、第247回8/24、第248回9/14）
5月	20日	(大学)	令和元年度第1回地域連携推進室会議
6月	10日	(大学)	地域志向科目「ひょうご神戸学」開始（以降第3Q、第4Q開講）
	13日	(大学)	地域志向科目「地域社会形成基礎論」開始（以降第3Q、第4Q開講）
7月	25日	(人文)	兵庫県文化財防災研修会（8/7 加古川、8/23 姫路、9/2 朝来、9/9 洲本）
	26日	(農学)	村の担い手と若者の活躍の場を考えるフォーラム in 丹波篠山
8月	1日	(大学)	灘区まちづくり会議への参加
	8日	(大学)	神戸のつどい
9月	8日	(保健)	第27回神戸在宅呼吸ケア研修会
	12日	(大学)	第5回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
	27日	(大学)	中津市歴史博物館協議会